

一速報一 1981年2月1日発行

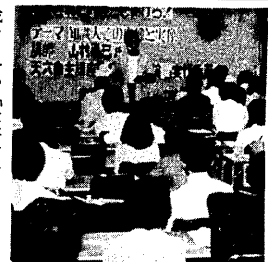
自主講座 第八回目近づく 2月24日(火)

委名を見てもわかるように、今日の腐敗した大学を告発し、変革して行くことを目的としているのだ。単なる教養を売り出すものとは訳が違ふ。受講者間の問題意識の共有、あるいは相互批判を通して、大学の在り方を問い直すという試みである。学内外・年齢を問わず、誰でも参加できる形態は、文字通り、「大学の解放」をめざしていると言える。

これまでに「今日の文化的状況と大学」「大学と管理社会」「知識人—その虚像と実像」の筑波大学—新構想大学の真実—筑波大学—「大学」とりあげてきた。講演と質疑応答という構成で、とりわけ後半の討論は非常に活発である。案外、気づかなかった点を指摘されたり、討論の応戦の中で真理が明らかにされるなど、毎回、貴重な意見が飛び出してくる。また、ざっくばらんな雰囲気も特色のひとつである。

関大II部(天六学舎)において八〇年六月より「天六公開自主講座『II部大学論』」閉ざされた門をこえあげろ!!」が毎月開講されている。同講座の実行委員会は、II部生・教職員有志によるもの。これは八〇年度学費値上阻止闘争を契機としている。ゆえに、その性格は、「市民大学講座」的なものではない。実行

受験生諸君! 本日、ここへ来て来た君たちは、おそらく数年間を、入試のために費してきたのだらう。そしてそんな君たちに対して、本来ならば「頑張った!」という類の暖かい励ましのコトバを送るべきかも知れない。けれども、今、我々はそのコトバを何のためらいもなく、無責任に発することに抵抗を覚える。たいそう、もったいをつけているように聞こえるかも知れない。だが、無原則に「頑張れ」ということは今日の入試制度をそのまま認めることになるのだ。我々はこの紙面をかりて「現在の教育体制は歪んでいる...」などと、きまりきった話を一席ぶとうとは思わない。今の教育、とりわけ大学制度に問



我々自身の「大学」へのかわりを検証することから開始せねばならない。 今月、二四日には、第八回公開自主講座として、「大学における教育を考える—資料「高等教育懇談会報告」に基づいて—」を公開学習会として予定している。受験生の皆さん! 決して損にはならないと思う。是非、このユニークな自主講座へ参加しよう!!

これまで七回の講座の中で明らかになったことは、端的に言う(1)今日の大学は、資本主義社会のゆがみの構造として存在している(2)ゆえに、大学内部の矛盾と社会矛盾とは互いに影響を及ぼしている(3)大学人はその現状を認識し、批判的に行動しなければならぬなどである。そのためには、既存の「大学」への幻想を打ち破り、

問題があることは、誰もが認めているからだ。それこそ、政府・文部省の方や、この関西大学長をはじめおおよそ教育・研究に携わっている人々は、皆、口をそろえて言っている。肝心なのは、その先である。誰かが認めているからだと、純粋に、勉強する。ため、あるいは資格を取得するため、と理由は様々に存在するかも知れない。しかしながら、大学生になることで、望むと望まざるにかかわらず、一定の社会的責任

受験生諸君へ! 面がつまきまとうのである。と同時に、多額の学費と「学力」を用意できなかつた他の多くの友人たちの上位に位置するのだ。これらの意味の重要性を踏まえて、さらに「大学」をめざして君たちは「入試」

般学生には、「百害あって一利なし」の代物である。学生大会において決議された「全学説明会要求」をはじめ、今年度の学友会は、その任務を全てユキスゲし、その執行委員長は失走(逃亡?)し、それなのに、「学園」の話だけは順調に進んでいるのだ。数億円を必要とする学館建設は、来年度にも予定されている学費値上の絶対的の火の手が上るのは必至である。

十・八講演会 差別発言問題 昨年十月八日、民族問題に関する講演会が学内で行われた。主催は文学部、講師は東大・山下

教授であった。会場を埋めた百人余の聴衆を前に民族差別と文学についての講演が行われたのだがその時、講師の口から「北鮮」という語が発せられた。即日、事務室に問題発言があった事を申し入れ、続いて一日五文学部学生主任八尾氏との話し合いを持った。

「北鮮」あるいは「南鮮」の「鮮」は日本が朝鮮を一九一〇年植民地化していく中で用いられた言葉である。「朝」は朝廷、天朝(天皇)につながるから畏れ多い時に削られれば朝鮮人を呼ぶ朝鮮人を劣等民族と決めつけた侮辱・差別する感情もこめられていた。日本は敗戦により植民地朝鮮を手放したが以後も朝鮮人に対する差別意識は薄れるどころか反復、増大している。

この場合は日本が朝鮮を百年に渡り、支配・抑圧。差別してきた歴史と現実の中から出てきたものであってもっとも重大である。この差別主義・植民地主義用語があらゆる事柄に民族問題講演会の中

十・八講演会 受験生有志と「民権差別を怒る会」は三月の、北鮮」発言の差別性—歴史的現代的意味を説明し文学部の学生無視、II部部長を追究し、居直りをやめ文学部は「居直っていない!」一つ一つの事柄について声明を出さな

皆様ようこそこの関大II部へ。 「関大II部用語の基礎知識(八一年版)」を皆様に贈呈致します。 ▽大西学舎—II部出身の学長だが、天六学舎へは年数回しか来ない。II部重視を唱える際には、有言不実行の人。 ▽新学生会館—前執行部の時から、学費値上げとの取引にされたものでは、という疑念つき建物で現在在学中。学生会館とは名ばかりで、各クラブのボツツとか武道場などがほとんどである。別

▽学生大会—三百名の定数を充たすことはまれ。議長をはじめ、参加者の大半がクラブの所属者。昨年一月二日の学費値上げに関する臨時学生大会は六百名以上が参加で、夜の十一時過ぎまで行われた。学費値上げ阻止の為にストライキを呼びかける学生の声を、学生服に身を包んだ二百名以上の学生(体育会・応援団等)はヤジと怒号で圧殺した(その時、日本共産党—民主青年同盟(民青)の諸君は、民主的でない学生服の学生と協力して、スト反対を唱えたが、今年は国公私大統一ストライキに連帯しようというビラを出している。茶番劇にイヤ気さした一般学生が参加しなくなり、学生服大会に変わる日も近い。

▽学生会館執行部—体育会・応援団・文化会等のクラブに所属する者が大半で、なかには一般学生の代表という人が少数いるが、その場合の一般学生は民青と同義語。 ▽関大創立百年—数年後にやってくる寄付金をとりたてる為の口実。

▽教授—単位を与えるということだけで、学生を支配している人。 ▽大学院・研究室。グラウンド。千里山にあって、天六学舎にないもの。 ▽停電—天六学舎にあってはならないもの。 ▽暴力学生—民青が好んで使うレッテル。主に、討論をふっかけた答えられない場合や、自らの非を打ち消す時に、「暴力学生」というレッテルを貼り、自分を正当化する非常に便利な言葉。

韓国全政治犯救出に立ち上る

不倒不屈の韓国民衆の斗いに学び、全力で連帯し切る

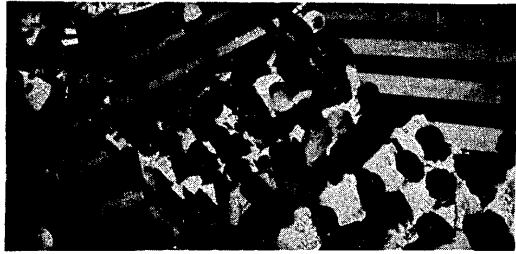
金大中氏に自由を

日韓民衆連帯の紅蓮の糸を創り出そう

一月三日、韓国全斗煥政権は金大中氏らの上告を棄却したのち減刑措置を発表した。金大中氏への死刑はひとまず回避された。民主主義そのものへを救くこの暴行裁判には全世界が抗議の声を上げた。そしてこの「減刑」で問題は終わらない。①金氏減刑の意味

まず金氏を救せは韓国民衆が黙っていない。従って全斗煥がちょっとよしたという点がある。全斗煥の脳裏に五・一七クーデターで金氏を逮捕した直後、光州八〇万市民が一致して立ち上り全市を解放区とした光州蜂起の記憶が浮かんだに違いない。民衆が無言の圧力として自由光州陥落後も全国で続々起こる闘いを死刑判決を阻止した第一の要因ではないか？

次にあげられるのが国際的な「世論」であろう。金大中氏らを殺すな！の叫びが大きな共感と支持を呼び、例えば日本政府をして（口先だけであって）憂慮を表明させた。経済統制に悩む全斗煥にとって韓米・韓日関係の悪化は



さらに恐ろしい事にはこの温情の一方で多くの人々が抹殺されようとしている事である。五月光州蜂起で捕えられた人々のうち三名南朝鮮民族解放戦線事件でデッチ上げられたうちの二名に死刑が宣告され、在日韓国人「政治犯」五名も死刑が確定している。既に光州で捕えられた八名が同房者の目の前で撲殺された（昨秋）ように囚の中に非難されてしまう危険が多分に存する。

総体的に見てこの減刑は軍人・全斗煥の冷酷な計算に基づく「作戦」のひとつである。独裁の安定と民主勢力の完全な抹殺のための。

②全斗煥の狙うものは何か？

しかしファシスト全斗煥は単に受刑者に譲歩したのではない。この減刑が救出運動を沈静化させる意図を含んでいる。静化してはならない。その意図は「罪を認め、引退を約束する」書類書を出したから死を免じた、という政府発表の卑劣さの中によくあらわれている。

次にこの減刑を日米当局者が事前に知っていた（宮沢官房長官は「良い感触」と事前に語っていた事など）、即ち日米韓の間で決定された事に目を向けねばならない。案の定、日本政府・財界は「待ってましたとばかりに日韓官廳会談、定期閣僚会議、経済援助、民間レベルの経済進出の再開の意思を表明した。

③減刑で問題は終わらない！

金大中氏の問題は彼個人の問題でなく韓国民衆の闘いの問題である。彼が闘ったのは韓国民衆の闘いと共であった。

第一に金大中氏が韓国民衆の闘いに民主化への願いこそ正当である。全世界はそれを理解しているからこそ金大中氏救済の声をあげたのだから、一切の刑罰が不当なのだ。従って金大中氏は直ちに無条件で釈放されるべきである。

第二に減刑の如何にかかわらず韓国の状況が何ら変わっていないことである。金大中氏が願った民主化と南北統一へ向かうどころか、全斗煥の暴力政治の日本資本と民衆が増々抑圧され、日本資本の対韓輸出（韓国経済支配、労働者への強奪）が強化される事が予想される。全斗煥は既にマスコムの整理・統合（完全御用化）や治安立法の整備を終えた。政党も与党と完全御用野党を計十八も作らせた（全てデッチ上げなので民主韓国党とか大憲党とか珍妙な名前も多い）更に全斗煥は故朴正熙の時代に破綻した輸出依存型高度成長を再びやろうとして日米のテコ入れを再びやうしている。

④我々は何をなすべし？

まず一部でささやかれている連動解論を乗り越え、金大中氏の完全釈放を求める闘いをやり切らねばならないことは当然である。次に光州蜂起や南朝鮮民族解放戦線事件で死刑判決を受けた五氏を在日韓国人「政治犯」五氏への闘いを阻止せねばならない。安保闘争以来、と言われた金大中氏救出運動の勢いをこれら全政治犯への死刑阻止、即時完全釈放をかなとする闘いと有機的に結合せねばならない。それを実現した時、これまでの闘いを真の韓国民衆の連帯を築く闘いとなし得るのでないだろうか！

次に我々は政治犯救済運動は、政治犯を生み出す構造そのものを撃つ闘いであると考えよう。具体的には韓国政府は常に朝鮮民主主義人民共和国を敵視し、その脅威を宣伝してきたことをもって韓国民衆を抑えつけようとした。その目的の通りかえし「北のスパイ」をデッチ上げ政治犯として獄に叩きこんできた。従って南北分断と南の反共國家を永久固定する事が韓国・日本

アメリカの狙いである。特にわが日本政府・財界は利権を保持し、韓国を反共防壁とする意図から、一貫して軍事独裁を歴代支持援助し続けてきた。その中で政治犯が生み出されているのは当然である。従って我々の闘いはもとを断つ闘いと、そのような米日韓の体制への闘い、特に日本政府・資本への闘いとして展開すべきだと考える。我々も関大闘生として四年間、に渡り、学内のヒラマシ、オルグ活動、集会・デモ、大学当局への要求などを行ない、その蓄積と結合する形で学外での集会、デモや諸活動に参加してきた。（民族差別に対する闘いと共）

実に残念な事に関大当局は「金大中氏判決への抗議声明を出せ」という要請（学友会の公印付き）を今だに拒否している。すでに全国四〇〇人以上の学長・元学長が声明を出しているというのに。

全ての青年諸君！ 金大中氏の問題、韓国の問題を断つて他人と見る事のないよう訴えるものである。耳をすませば聞かせるではないか。アジアへ出動する時を待っている新日本軍の軍靴の響か

十二月十二日

全斗煥、統戦戦の末に権力を掌握（盧武鉉デモ）

〇〇年五月一日

ソウルで三日連続十万人デモ。

五月十七日

全斗煥、全土戒厳令発布し金大中氏をはじめ一千人以上逮捕

五月二〇日

光州市反政府デモで八〇万市民が立ち上り、軍政方と対決

統戦戦の末二千人死亡、一万人以上が負傷、あるいは逮捕。

八月二日

「政治に関与しない」と言ってきた全斗煥、大統領に就任。

九月十七日

金大中氏第一審死刑判決

十一月三日

同第二審控訴棄却

十二月一日

金芝河氏、釈放される

十二月二十九日

光州事件で三人に死刑判決。

大法院、金大中氏の上告を棄却、直後に閣議で減刑を決定。

（一面より）

いのが基本方針」「不充足点は今後の取組みでカバーする」と答えたがこれに満足できなかった。しかし同を迫る友がつかめかけ、それぞれの思いをぶつけ追及を行なうようになると文学部としてもある程度対応を示さざるを得なくなった。

十一月九日、文学部は学部生と教員を対象に声明を掲載がある。十一月八日問題で学生の指摘があった事を民族差別克服の姿勢と理解する。

文学部としてこれまでの不充足さを克服するため具体的な取組みを行なう。

との要旨であった。

今ここで逐一批判をする事は避ける。それよりも現在、文学部と関大当局に出している我々の要求を紹介しよう。

文学部は朝鮮語、朝鮮史、日朝史などのカリキュラム化、講演会・学習会の定期的開催を含む取り組の具体的強化を行なう。

藤井文学部長は逃げ回らず、文学部は全学的な民族問題取組みを実現するたためまきかけよ。

関大当局はこの問題を傍観せず主体的に取り組み。

関大当局は「民族問題に関する然るべき機関設置」の公約を実行せよ。人権問題一般への流し込み。薄め策動反対。

なお、大学に対する要求と共に学生自身の自覚と参加も不可欠であるという視点から学友会、自治委員、各パートにも取り組むの要請を行なった。しかしまだまだ学友会は消極的であり、社会学部自治委員らが「切り捨て必須な」と一方的に「取り捨てる」。

民族差別を助長するこの消極性・反動性を我々は悲しく思う。そして強く訴える。

差別と闘う事は必ず自ら「一生」をより豊富に、より人間的なものにする事には信じている。

詩人金芝河氏は言う。

平和や幸せは守るものでなく、血みどろの努力でかちとるものだと。

十一月八日 護国演説会 護国演説会

金大中氏関係年表

七月四月二七日

大統領選で五四〇万票を獲得し朴正熙に九〇万票差に迫る。

七月一〇月一七日

金氏、公的資格をはく奪され日米で民主化運動を展開。

七月三年八月八日

東京のホテルから白昼、誘か

いさ五日ソウルに。

七月五年十一月二日

在日韓国人青年十七名、北のスパイとしてデッチ上げ逮捕（いわゆる十一・二二事件）

七月五年十二月三日

金氏、過去の選挙違反で懲役一年の刑を受ける。

七月六年三月八日

民主教団宣言を発表し、一年後に懲役五年の判決。

七月七年三月四日

第二次民主教団宣言発表して自宅に軟禁の状態となる。

十月二六日

独裁者朴正熙大統領、KCI A部長に射殺される。